

Watching Carefully

取材・文/編集部 撮影/畑中勝如 編集部

FANTASTIC PLASTIC MACHINE 10th Anniversary KYOTO CLUB CIRCUIT 2005

FPM10

@METRO/etw

@WORLD [世界]

@LAB.TRIBE

@COLLAGE



「写真撮るよ〜！早く早くっ！」。学級委員よろしく、ウェルカムパーティで大声で出演者を集めていたのはSILVAだ。修学旅行の記念写真のような一葉には、東京スカパラダイスオーケストラの谷中敦も、Radio Carolineのウエノコウジも、ケツメイシのRYOJIも、武田真治もいる。これほどのメンツが一枚の写真に収まっていることが信じられない。「FPM！FPM！FPM！…。誰からともなく大コール。中央には主役、FPM・田中知之。至上の笑顔だ。京都を起点にメジャーデビュー10周年を祝う夜。

「礼に始まり礼に終わる、素晴らしい人（SILVA）」「これだけアーティストが集まるのは田中さんの人望ですね（武田真治）」「これだけの人を繋いでいるのは田中の存在が大きすぎるからだろうね（谷中敦）」…。とにかく誰にコメントを求めても通り一遍の言葉がなく、心から主役の人徳に答えるものばかり。「仕事仲間と言うより、普段一緒に肩組んで飲んでる仲間」という本誌10月号のインタビューで紹介した言葉が真実であると確認できた。

本当に祝う気持ちが伝わる、良いイベントだった。だが今のところ、一夜限りの夢である。「こうなったら今夜、みんなで伝説を作ろうではありませんか！」。イベントに際して田中知之はこう寄せたが、残念ながら伝説は一夜では成らない。METRO・WORLD・LAB.TRIBEという京都の主だったクラブが、史上初めて手を組んだ「クラブ・フェス」と「Kyoto Jack」。本当に笑顔に満ちたハッピーな夜でした。今夜のミラクルはこの街にとって、大きな意味を持つと僕達は思っています。各クラブのプロデューサーで組織されたFPM10制作実行委員会の面々は確信的に次回開催を匂わせる。主客ともに満足させた成功を考えれば当然だし、何より未だこのイベントを知らない者が、そしてこの光景を目にすべき人がいるのだから。

伝説とは、振り返って思うもの。「ひとりの人間にとっては小さな一歩でも、人類にとっては大きな一歩だ」。人類史上初めて月面に足跡を残したアポロ11号のニール・アームストロングは言った。「十年に一度のわがまま」が「京都の秋の恒例」になって初めて伝説の一夜は誕生するだろう。それが「一夜の出来事」が「歴史的GIANT STEP」に変わる時だ。悲しいかな京都が生んだ偉大なDJの友人ではない我々オーディエンスは、伝説をもって心から感謝し、その人徳にリスペクトを捧げよう。

ほとんど、キョウト・ジャック。コーナー史上、最も豪華なキャスト。京都だから成立したイベント。だが、伝説は一日にして成らず。



スカパラの谷中敦さん。「開いてこともあって色々尊敬のできる人。やっぱりひとりで道を切り拓いてきた人なので、僕は世界一のDJだと思ってます。フットワークの軽さもすごくて『NY.日帰りDJ』なんて伝説も数知れない(笑)」



主役の田中知之さん。「断られるだろう、ということで多めに声を掛けたら全員来てくれました(笑)。皆で飲もうと新幹線のビールを買い占める勢いで来ました。偉ぶった系振りは皆無。彼の周りには喜んで輪を作る



同イベントの将来について真理を突いたのはこの人、DJ DRAGON (BLACK JAXX) だったかもしれない。「京都は個人的にもメトロやワールドっていう思い出のあるハコが多いですね。あとコレを10年は続けて欲しいですね。来年もやらなきゃ」



彼女もデビュー10周年のSILVAさん。「私がDJをするきっかけもやっぱり田中さんの影響。今では毎週一緒に飲んでます。でも田中さんは私を女扱いしてくれないんです。私は田中さんの弟分(笑)」



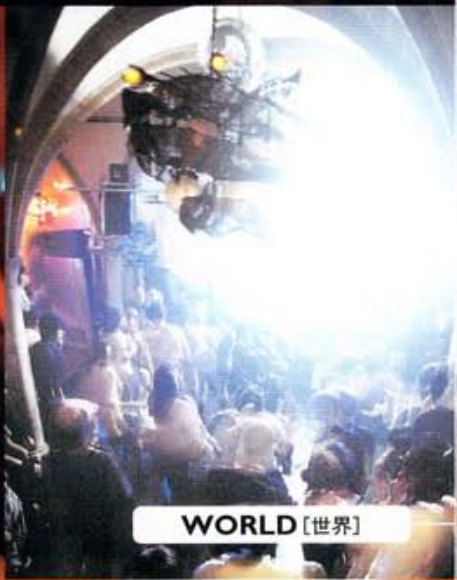
METRO



COLLAGE



LAB TRIBE



WORLD [世界]

イベント当日、各クラブへの移動はMKタクシーの循環シャトルが特別に用意された。その他「未成年用バス」を導入し、幅広く集客するとともにアルコール対策も徹底するなど、東京のシーンでも評価を得た



etw



今回のイベントにおいて、唯一オフィシャルスポンサーを買って出た、同じく京都本店がオープンして10周年を迎える「Spinns」のボス・出路雅明社長。気合いの入った乾杯で出演者、スタッフ全員がみごとにあった



武田真治、DJ DRAGONとともに「BLACK JAXX」の一員として参加したISSEI ISHIDAと石田亮成さん。当日は22時過ぎ京都着の新幹線で滑り込み。忙しくても田中さんの為にやって来たのだ



「まずはおめでとうございます(笑顔)。もう10周年なんですよ〜。田中さんは飲み仲間というよりもパーティで会うことが多いのでパーティ仲間です」とコメントしてくれたのはOul Oulの野宮真貴さん



「ひとりで10年間走り続けるのはすごいですよね。これからも日本だけじゃなくて世界を明るくするようなDJでいてください! 田中さん愛してます♥一生ついていきます」。とはこちららデビュー10周年、ケツメイシのRYOJさん



記念写真では最前列に陣取った武田真治さん(BLACK JAXX)。「今回参加が決まったのは一番最後ですが、一番盛り上げますよ。酔っているときに気付いたら田中さんがいて感じて知り合いました。とにかくおめでとうございます」



「おめでとうございます田中さん。僕達はFPMを愛しています!」。このイベントを首謀したプロデューサー陣。左からWORLD・中本さん、METRO・林さん、実行委員長のLAB TRIBE・金正さん。京都POPカルチャーの安泰は彼らの肩に乗っている



誰もがリスペクトを込めて「レコード番長」と呼ぶシーン最重要人物の一人、須永辰雄さん。田中知之さんが尊敬しているという御大は、nobodyknows+のメンバーをサプライズゲストに連れてお祝いに登場



m-floの女Taku Takahashiも駆け付け、スペシャルゲストとして野宮真貴さんをWORLD [世界] に招いた。もちろん「野宮真貴 loves m-flo」名義の「Big Bang Romance」を披露。会場は狂喜乱舞



WORLD [世界] のVJを担当したのは女子ふたり組のSTEREO TENNIS。「このイベントに参加できて光栄です。京都にいるときはすっごくお世話になりました」



ファッション各誌やGLAYの専属スタイリストとしても活躍する坂崎タケシさん。「田中さんが19歳の頃から使っていたターンテーブルをいただいたんですよ。これからもおいしい思い出させて下さい(笑)」